

# 熊野古道のミカン灰を利用した 陶磁器釉薬と製品の開発

三重県科学技術振興センターでは、平成16年、熊野古道が世界遺産の登録を果たし注目を集める東紀州地域(熊野古道地域)に新たな魅力を加えるべく地域の産物を活かした商品開発事業を行っています。



当研究開発では、御浜町や熊野市周辺で栽培されているミカンの焼却灰を陶磁器釉薬の原料として利用する研究を実施し、開発した陶磁器釉薬を地域で製造される陶磁器製品に用いて、新たな付加価値を持つ熊野古道の産品として事業化されることを目標としています。

平成18年度までに、ミカンの選果場から出る廃棄果実の焼却灰を用いた釉薬を開発し、既存の商品に利用して製品化しました。焼却炉内の鉄分を含むため、茶色の発色呈する製品となりました。

平成19年度にはミカンの木の剪定枝葉焼却灰を利用して釉薬化し、新たな製品を開発する研究を進めています。

左写真は枝葉焼却灰を用いた釉薬に青色顔料で着色し、『塩鍋』とした試作品です。

